

特別講演

家政学への期待

東京工業大学 工学部長
工学博士 清家 清

1. 学生の就学態度について

学生は A : academic な勉強をしたいと思っている。 B : 学生生活 — 例えばテニスしたり、友人たちと談笑したりなどのいわゆるカレッジライフを楽しみたいと思っている。 C : 職業訓練を受けて、卒業してからそれによって生活を支えるよすがにしたいと思っている。一般の学生はこの三角座標のどこかに位置している。

2. 家政学は、学問分野として独立しているか。

医学部・工学部などの学生が、どちらかといえば職業訓練の色彩が強く、卒業後の収入や就職率などについての関心が強いのに反し、理学部・文学部・芸術学部などではアカデミック指向型になっている。そうしたなかで、家政学のカリキュラムがどのような形をとっているだろうか。云いかえれば、卒業後の就職について、プロの水準に達するほどの教育がされているわけではないし、現時点ではこの国の学術会議や学士院あるいは芸術院のようないわゆるアカデミーで、家政学自体について文字通りのアカデミックな古典体系としての認知がされていない。新しい学問体系としても、学際的なギャップ充填の意味での ANALYTICAL な問題追及や SYNTHESISE の方向に向くには若すぎるきらいがある。

3. 家政学は職業訓練たり得るか。

職業欄に「主婦」と書く習慣がある。また家政学の術語には「家事労働」ということばもある。また、家政学科の卒業生には職業訓練的な免状マニアが多い。むかしから花嫁修業の一環として、茶の湯、生け花をはじめ、芸事、習い事を履習しておくことから、現代に及んでいる。家政学のカリキュラムの中には、この種の職業訓練に対しての修業を用意することが、学校経営の必須要件になっている。

4. 例えば家政学「住居」のありかた。

家づくりということばからいえば、たしかに建築家の仕事も家づくりの一部分を形成している。しかし、家政学でいう住居の範囲は、建物が建てられたあと、あるいは建物を建てる以前のことのほうが重要であって、市販の住居学の教科書や、大学のカリキュラムが、ミニ建築工学に情しているのは誤りと云って過言でない。家政学の家づくりというのは、建築工学ではなくてソフトウェアの問題である。

5. 家政学への期待

もともと ECONOMY というのは OIKOS = NEMEIN が語源といわれ、HOME-ECONOMICS (家政学) が将来どのような形であってほしいかということは、ECONOMY がどのような形を執るだろうかということに似ている。私見としては、家政学は LIBERAL-ART の一端にあって、ECONOMY の問題をふまえながら、AMENITY の向上発展を指向する学問ではないかと思っている。